

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 事業所番号, 法人名) and Value (e.g., 0475101143, 社会福祉法人 大樹).

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活においてはこれまでの生活歴や得意なことなどを把握し、その方の強みを活かした役割のある生活が送れるように心掛けています。地域の一員ということを念頭に、地域の方々との交流を大切にしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先 and URL (http://www.kaigokensaku.jp/).

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name (e.g., 評価機関名, 所在地) and Value (e.g., NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会).

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市営バス停「東北福祉大学前」より徒歩5分、寺院と住宅に囲まれた閑静な住宅街の一角にある。1階にケアプランセンターを併設し、2階は令和3年7月に増築され2ユニットとなった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Achievement Criteria (1-4), and Evaluation Result (O/empty circle).

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームほくと苑)「ユニット名 1階」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに、職員間で理念を話し合い、その意義やほくと苑のあり方を共有し再確認している。人権と尊厳を大切にした声掛けやケアを実践している。	「人権と生命の尊厳を限りなく大切にしたい利用者中心のサービス」の基本理念を基に作ったホーム理念を継続している。毎年度初めに、法人理事長より基本理念と基本方針についての講話がある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が散歩中に地域の方と挨拶をしたり、町内会の研修や地域の祭りなどに参加している。	町内会に加入し、回覧で行事等の情報を得ている。市民センターで開催された北山交流まつりに、入居者の作品「貼り絵」を出品し見学に行き、中学生の吹奏楽演奏を鑑賞した。町内会新年会に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りに作品を展示する際に事業所紹介をつけさせていただいた。また運営推進会議を通じて報告を行なっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催。町内会長、民生委員、ご家族代表、包括職員に出席していただいている。入居者様の状況、行事、防災計画、委員会活動、実習生の受け入れなどの報告。	北山市民センターで奇数月に開催している。活動報告は毎回、行事や食事の様子等鮮明な写真を添えている。「入居者の楽しそうな様子がよく分かり気持ちがほっこりする」等のコメントを貰っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は市の担当者に連絡をとるようにしている。	介護保険の更新や区分変更、生活保護等の諸手続きで担当課に相談、助言を得ている。地域包括主催の認知症対応事業所事例報告会に参加している。市の介護職スキルアップ研修の年間予定が来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外の玄関施錠や各居室の施錠は行っていない。身体拘束にあてはまらないか定期的に委員会を行いグレーゾーンなどの検討会を行なっている。	「身体拘束適正化委員会」を3ヵ月毎に開催し、会議録を職員に周知している。職員は法人研修委員会の動画を用いた研修を受けている。外に出たい方には、ゆっくり話を聞き、一緒に歩く等見守り介護を実践している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の関わりから適切ではないケアなどを振り返る機会を持ち、自分自身で気づくことを意識した取り組みを行なっている。	「身体拘束適正化委員会」でグレーゾーンの報告や検討、今後の対応等の内部研修を実施している。職員は振り返りシートを提出している。不適切ケアがあった時は、リーダーや管理者に報告する流れがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で成年後見制度について学び、必要があれば活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に契約書、重要事項説明書の説明を行い同意を得ている。都度疑問がないかお聞きし、解決できるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等いただいた場合には、すぐに話し合いを行い反映している。こちらの対応に満足していただけない場合には、第三者への連絡も出来る旨を入居時に伝えている。	面会時や運営推進会議時に意見や要望を聞いている。遠方の方は電話で話す事が多い。3ヵ月毎の介護計画見直し時に「要望書」を送り、返信を貰っている。「外出を多く」「茶道をさせたい」等に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員と面談する時間を設け個人の目標と達成度を確認している。管理者は法人に対して働きやすい環境の整備を依頼している。	毎月のユニット会議や申し送り時に職員の意見や要望を聞き、話し合っている。夜勤と遅番の勤務時間の変更やレクリエーション時等に使う「輪投げセット」の購入をした。資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が主体となり、労働環境の改善、質の向上、労働時間の見直しを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の委員会を主として、研修を積極的に行なっている。個々の能力や学んでほしい部分に合ったスキルアップ研修への参加を促している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修など外部研修への参加を促している。	地域包括主催の認知症対応事業所の勉強会に参加し、情報交換や交流を図っている。認知症グループホーム協議会に加入し、実践報告会等に参加している。法人の各委員会に職員2名ずつ所属している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人様とお話をする機会を設け、入居後の生活に望むこと、必要なことなどをお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の心情や状況を受け止めながら、事業所としてサポートできることを説明し、理解、納得して利用していただけるようにするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、関係者から得た情報を管理者、計画作成担当者が中心となって職員で検討、実施を行なっている。医療に関しては主治医、訪問看護師と相談し、意見をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にケアを提供するのではなくご本人様と話し、相談しながら生活支援、レクリエーションを行なっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の緩和、毎月の様子について文書や広報誌、必要に応じて電話やメールにてご様子をお伝えしている。また必要品の購入や衣類の衣替えなど日常的な部分でご家族に支援をお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスに関する感染対策により関係性は薄れてしまったが、面会の緩和などにより徐々に取り戻しつつあると感じている。	面会に制限がなく、友人や親戚の来訪がある。家族同伴で通院時に、自宅で食事や買い物等して来る方がいる。カラーやパーマも対応する訪問美容師は馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席、余暇時間の席など入居者様同士の関係性をみながら配置を考えている。自分からコミュニケーションがとれない方は職員が仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に入所した方に関しては、面会し、顔を見せるようにしている。また、特養職員から利用者様について相談を受けることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、どのような暮らしを望んでいるか、どのような思いを抱えているかを汲み取れるように努めている。カンファレンスを通して本人に必要な支援について検討している。	日常の会話の中で把握した思いや要望は、メモに残し共有している。入居者は食べることが好きな方が多く「天ぷら、焼き鳥が食べたい」と食への要望が多い。敬老式に「天ぷら手作り祝膳」にして応えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査でご家族様、ケアマネジャーから細かく情報収集し、ユニット会議で報告することで職員間の情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りの際に些細なことでも伝え、記録することで職員間で情報共有に努めている。カンファレンスの際に、改めてお互いに情報を出し合い共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療面では主治医、訪問看護師に協力を得ている。ご本人様、ご家族様とはお話を聞く機会を設けたり書面での聞き取りを通じて意見をいただいている。	担当職員が3ヵ月毎にモニタリングをし、家族に送る「要望書」や毎日の記録「生活リズム表」を基に計画書の見直しをしている。計画書は外出や食事、排泄時の援助内容を詳細に記し、現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ソフトを使用し、読みやすい記録を目指している。細かな情報を入力することで介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて希望に沿った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との連携、訪問美容、実習生の受け入れなど行なっている。新型コロナ感染拡大以前は近隣の保育園と合同行事を行っていたことがあり、改めて新たな地域資源の活用を検討したい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科治療に関しては、主治医のもとに週1回通院し、健康管理をしている。入居に際して、ご家族様と主治医が面談し、関係性を築くようにしている。	週1回職員同伴で通院している。訪問診療を利用している方もいる。他科の受診は家族の対応である。9カ所の協力医療機関と連携している。受診結果は通院ノートとケース記録に記載し職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週1回の訪問時に日々の状態を伝え、特変があれば主治医につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書やフェイスシートの提供に加え、電話連絡および面会を行い連携できるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りの際にほくと苑として出来る部分は伝えている。また、日々の面会の際や電話連絡などでこまめに伝えるようにしている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」を示し、入居時に本人や家族に説明している。段階的に主治医と話し合いを行い、方針や対応方法を図っている。ホームでの看取りとした場合に「看取り介護同意書」を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、応急手当のマニュアルを目の届くところに置いてある。また、事業所内研修で勉強している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災、避難訓練を行うようにしている。消火機器点検の際には防火管理者だけでなく、他の職員も同席し、機器の使い方について再確認している。	消防訓練実施要領を作成し、日中想定2回、夜間想定1回を実施している。終了後に反省会を開き、避難誘導の仕方や計測時間等話し合っている。近隣の法人施設の応援がある。備蓄3日分を各ユニットに保管してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。居室に入室する際には、ご本人様に確認をとり許可を得てから入室している。	一人ひとりの個性や性格を把握し、入浴や排泄、着替え時にプライバシーに配慮した支援を行っている。トイレ誘導は耳元で「お部屋に行きましょう」と声がけしている。呼び名は「さん」付けで、希望する名で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定できるような環境や場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活リズムを重視しながら、家事活動やレクリエーションへの参加の働きかけを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでいただいたり、定期的に訪問美容を利用し、髪を整えている。行事の際には女性入居者様に化粧の手伝いを行なっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、後片付けと入居者様の状況に合わせて一緒に行なっている。献立は栄養士が季節の食材や入居者様の好まれる品、栄養バランスを考慮して作成している。	法人栄養士が献立を作っている。朝のみチルド食を利用している。食べることが好きな入居者に合わせて、節分に恵方巻き、雛祭りにはちらし寿司等行事食やおやつを一緒に手作りしている。誕生日はケーキを作る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リズム表を使用し、水分、食事摂取量の把握に努めている。個々の摂取状況に応じて形状や量、提供時間を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせて口腔ケアを行なっている。(歯磨き、うがい、義歯洗浄、夜間の義歯保管)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、ご本人様の排泄状況に合わせたケアを行なっている。	一人ひとりの生活リズム表に合わせた時間帯やそわそわする等のトイレサインに、声かけ誘導を行っている。日中おむつの方はいない。布パンツやリハパンにパッド使用でトイレで排泄の現状を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、必要な水分の摂取、提供する食事の工夫(朝食にヨーグルトを毎日提供など)を行なっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前に必ずご本人様に確認、健康状態に配慮し、無理なく入浴していただけるように支援している。	週2~3回の入浴をしている。入浴剤で色や香りを楽しみ、ゆず湯やりんご湯等で季節を感じる等の工夫をしている。拒む方には時間をずらしたり職員を替えて声かけをしている。同性介助の希望に応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動(体操、散歩)を行い疲労感を得られるようにするほか、午後からの水分摂取量に注意し夜間帯の排泄で睡眠が阻害されないように工夫している。日中は状況に応じて休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	専用のファイルに薬の説明書を綴り、新しい薬が追加されたり減薬された際には職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割の支援を目指している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより外出の機会が減ってしまったが、散歩やドライブなどは定期的に行なっている。	春に三居沢に桜見物、錦が丘にドライブに行った。月に2~3回はドライブを実施している。天気の良い日は、ホーム周辺の寺などに散歩に行っている。法人特養の夏祭りに参加し、キッチンカーや屋台で食べ物を選び、くじ引きやゲームを楽しんだ。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を管理できる方は居室内で管理していただいている。現在は外出の機会が減っているため、ご自分でお金を使用する機会も同様に減っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時や状況に応じて職員が促し手紙や電話でのやり取りを行なえるようにしている。また個人で携帯電話をお持ちの方は気軽に電話できるよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成した季節の飾りで装飾することで彩りが出るように工夫している。カーテンや照明で明るさの調節を行なっている。入居者が心地よいと思える大きさを音楽を流したり、TVをつけるようにしている。	ホールは毎日定時に換気をし、空気清浄機やサーキュレーター、CO2濃度測定器で温湿度は適切に管理している。壁に入居者が作った貼り絵が飾られ、クリスマスツリーが季節を感じる。テーブルは高さが調節でき、足置き台を置く等居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを各所に置くことで気軽に休める空間を作っている。テーブルを分けることで個々での過ごし方ができるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人様ที่ใช้慣れた家具や飾っていたものなどを持ってきていただいている。季節に応じた寝具などもなるべくご本人様が使っていたものを使用。	洗面台やクローゼット、エアコンが備え付けである。1階は全室にトイレがある。仏壇や本棚、椅子等を持ち込んでいる。壁に家族や猫の写真、職員手作りの誕生カードを飾り、安心できる自分の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉に入居者様の名前を表示。手すりの設置。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 2 columns: 事業所番号, 法人名, 事業所名, 所在地, 自己評価作成日. Values include 0475101143, 社会福祉法人 大樹, グループホームほくと苑 ユニット2階, 仙台市青葉区新坂町6-11, 令和 5年 11月 16日.

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活においてはこれまでの生活歴や得意なことなどを把握し、その方の強みを活かした役割のある生活が送れるように心掛けています。地域の一員ということ念頭に、地域の方々との交流を大切にしています。町内会に加入しており、地域住民の理解は得られている状況です。町内での行事への参加の声掛けもあり、入居者とともに参加しています。また、見学や介護の相談などで来設された際には当事業所だけでなく、法人内でお手伝いできることがないかを検討、ご提案させていただいています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

Table with 2 columns: 基本情報リンク先, URL: http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: 評価機関名, 所在地, 訪問調査日. Values include NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会, 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階, 令和 5年 12月 8日.

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは市営バス停「東北福祉大学前」より徒歩5分、寺院と住宅に囲まれた閑静な住宅街の一角にある。1階にケアプランセンターを併設し、2階は令和3年7月に増築され2ユニットとなった。職員は、食べることが好きな入居者に合わせて、恵方巻やサンマ祭り、芋煮会、おやつバイキング等盛り沢山の食のイベントを企画、実行している。季節毎の壁飾りを一緒に制作する等入居者本位と笑顔を大切にした支援に努めている。入居者の心拍や離着床、睡眠の状態等を見守る介護ロボット「aams」(見守りセンサー)の導入は、家族の安心に繋がり、職員の介護負担が大幅に軽減される等環境作りに取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes and staff efforts.

2.自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 グループホームほくと苑)「ユニット名 2階」

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度初めに、職員間で理念を話し合い、その意義やほくと苑のあり方を共有し再確認している。人権と尊厳を大切にした声掛けやケアを実践している。	「人権と生命の尊厳を限りなく大切にしたい利用者中心のサービス」の基本理念を基に作ったホーム理念を継続している。毎年度初めに、法人理事長より基本理念と基本方針についての講話がある。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者様が散歩中に地域の方と挨拶をしたり、町内会の研修や地域の祭りなどに参加している。	町内会に加入し、回覧で行事等の情報を得ている。市民センターで開催された北山交流まつりに、入居者の作品「貼り絵」を出品し見学に行き、中学生の吹奏楽演奏を鑑賞した。町内会新年会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の祭りに作品を展示する際に事業所紹介をつけさせていただいた。また運営推進会議を通じて報告を行なっている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回開催。町内会長、民生委員、ご家族代表、包括職員に出席していただいている。入居者様の状況、行事、防災計画、委員会活動、実習生の受け入れなどの報告。	北山市民センターで奇数月に開催している。活動報告は毎回、行事や食事の様子等鮮明な写真を添えている。「入居者の楽しそうな様子がよく分かり気持ちがほっこりする」等のコメントを貰っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要時は市の担当者に連絡をとるようにしている。	介護保険の更新や区分変更、生活保護等の諸手続きで担当課に相談、助言を得ている。地域包括主催の認知症対応事業所事例報告会に参加している。市の介護職スキルアップ研修の年間予定が来ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯以外の玄関施錠や各居室の施錠は行っていない。身体拘束にあてはまらないか定期的に委員会を行いグレーゾーンなどの検討会を行なっている。	「身体拘束適正化委員会」を3ヵ月毎に開催し、会議録を職員に周知している。職員は法人研修委員会の動画を用いた研修を受けている。外に出たい方には、ゆっくり話を聞き、一緒に歩く等見守り介護を実践している。		
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃の関わりから適切ではないケアなどを振り返る機会を持ち、自分自身で気づくことを意識した取り組みを行なっている。	「身体拘束適正化委員会」でグレーゾーンの報告や検討、今後の対応等の内部研修を実施している。職員は振り返りシートを提出している。不適切ケアがあった時は、リーダーや管理者に報告する流れがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修等で成年後見制度について学び、必要があれば活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時に契約書、重要事項説明書の説明を行い同意を得ている。都度疑問がないかお聞きし、解決できるよう努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見等いただいた場合には、すぐに話し合いを行い反映している。こちらの対応に満足していただけない場合には、第三者への連絡も出来る旨を入居時に伝えている。	面会時や運営推進会議時に意見や要望を聞いている。遠方の方は電話で話す事が多い。3ヵ月毎の介護計画見直し時に「要望書」を送り、返信を貰っている。「外出を多く」「茶道をさせたい」等に対応している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年2回、職員と面談する時間を設け個人の目標と達成度を確認している。管理者は法人に対して働きやすい環境の整備を依頼している。	毎月のユニット会議や申し送り時に職員の意見や要望を聞き、話し合っている。夜勤と遅番の勤務時間の変更やレクリエーション時等に使う「輪投げセット」の購入をした。資格取得を奨励している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が主体となり、労働環境の改善、質の向上、労働時間の見直しを行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の委員会を主として、研修を積極的に行なっている。個々の能力や学んでほしい部分に合ったスキルアップ研修への参加を促している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実践者研修など外部研修への参加を促している。	地域包括主催の認知症対応事業所の勉強会に参加し、情報交換や交流を図っている。認知症グループホーム協議会に加入し、実践報告会等に参加している。法人の各委員会に職員2名ずつ所属している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前にご本人様とお話をする機会を設け、入居後の生活に望むこと、必要なことなどをお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の心情や状況を受け止めながら、事業所としてサポートできることを説明し、理解、納得して利用していただけるようにするよう心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様、関係者から得た情報を管理者、計画作成担当者が中心となって職員で検討、実施を行なっている。医療に関しては主治医、訪問看護師と相談し、意見をいただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一方的にケアを提供するのではなくご本人様と話し、相談しながら生活支援、レクリエーションを行なっている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の緩和、毎月の様子について文書や広報誌、必要に応じて電話やメールにてご様子をお伝えしている。また必要品の購入や衣類の衣替えなど日常的な部分でご家族に支援をお願いしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	新型コロナウイルスに関する感染対策により関係性は薄れてしまったが、面会の緩和などにより徐々に取り戻しつつあると感じている。	面会に制限がなく、友人や親戚の来訪がある。家族同伴で通院時に、自宅で食事や買い物等して来る方がいる。カラーやパーマも対応する訪問美容師は馴染みの関係となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食席、余暇時間の席など入居者様同士の関係性をみながら配置を考えている。自分からコミュニケーションがとれない方は職員が仲介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同法人の特養に入所した方に関しては、面会し、顔を見せるようにしている。また、特養職員から利用者様について相談を受けることもある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、どのような暮らしを望んでいるか、どのような思いを抱えているかを汲み取れるように努めている。カンファレンスを通して本人に必要な支援について検討している。	日常の会話の中で把握した思いや要望は、メモに残し共有している。入居者は食べることが好きな方が多く「天ぷら、焼き鳥が食べたい」と食への要望が多い。敬老式に「天ぷら手作り祝膳」にして応えた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実態調査でご家族様、ケアマネジャーから細かく情報収集し、ユニット会議で報告することで職員間の情報共有を図っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りの際に些細なことでも伝え、記録することで職員間で情報共有に努めている。カンファレンスの際に、改めてお互いに情報を出し合い共有している。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医療面では主治医、訪問看護師に協力を得ている。ご本人様、ご家族様とはお話を聞く機会を設けたり書面での聞き取りを通じて意見をいただいている。	担当職員が3ヵ月毎にモニタリングをし、家族に送る「要望書」や毎日の記録「生活リズム表」を基に計画書の見直しをしている。計画書は外出や食事、排泄時の援助内容を詳細に記し、現状に即したものとなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録ソフトを使用し、読みやすい記録を目指している。細かな情報を入力することで介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて希望に沿った対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会との連携、訪問美容、実習生の受け入れなど行なっている。新型コロナ感染拡大以前は近隣の保育園と合同行事を行っていたことがあり、改めて新たな地域資源の活用を検討したい。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科治療に関しては、主治医のもとに週1回通院し、健康管理をしている。入居に際して、ご家族様と主治医が面談し、関係性を築くようにしている。	週1回職員同伴で通院している。訪問診療を利用している方もいる。他科の受診は家族の対応である。9カ所の協力医療機関と連携している。受診結果は通院ノートとケース記録に記載し職員間で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週1回の訪問時に日々の状態を伝え、特変があれば主治医につなげるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療情報提供書やフェイスシートの提供に加え、電話連絡および面会を行い連携できるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に看取りの際にほくと苑として出来る部分は伝えている。また、日々の面会の際や電話連絡などでこまめに伝えるようにしている。	重要事項説明書に「重度化した場合における対応に係る指針」を示し、入居時に本人や家族に説明している。段階的に主治医と話し合いを行い、方針や対応方法を図っている。ホームでの看取りとした場合に「看取り介護同意書」を交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応、応急手当のマニュアルを目の届くところに置いてある。また、事業所内研修で勉強している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災、避難訓練を行うようにしている。消火機器点検の際には防火管理者だけでなく、他の職員も同席し、機器の使い方について再確認している。	消防訓練実施要領を作成し、日中想定2回、夜間想定1回を実施している。終了後に反省会を開き、避難誘導の仕方や計測時間等話し合っている。近隣の法人施設の応援がある。備蓄3日分を各ユニットに保管してある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心に配慮した声掛けや対応を心掛けている。居室に入室する際には、ご本人様に確認をとり許可を得てから入室している。	一人ひとりの個性や性格を把握し、入浴や排泄、着替え時にプライバシーに配慮した支援を行っている。トイレ誘導は耳元で「お部屋に行きましょう」と声がけしている。呼び名は「さん」付けで、希望する名で呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様が自己決定できるような環境や場面づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活リズムを重視しながら、家事活動やレクリエーションへの参加の働きかけを行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服を選んでいただいたり、定期的に訪問美容を利用し、髪を整えている。行事の際には女性入居者様に化粧の手伝いを行なっている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、食事、後片付けと入居者様の状況に合わせて一緒に行なっている。献立は栄養士が季節の食材や入居者様の好まれる品、栄養バランスを考慮して作成している。	法人栄養士が献立を作っている。朝のみチルド食を利用している。食べることが好きな入居者に合わせて、節分に恵方巻き、雛祭りにはちらし寿司等行事食やおやつを一緒に手作りしている。誕生日はケーキを作る。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リズム表を使用し、水分、食事摂取量の把握に努めている。個々の摂取状況に応じて形状や量、提供時間を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方に合わせて口腔ケアを行なっている。(歯磨き、うがい、義歯洗浄、夜間の義歯保管)		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握し、ご本人様の排泄状況に合わせたケアを行なっている。	一人ひとりの生活リズム表に合わせた時間帯やそわそわする等のトイレサインに、声かけ誘導を行っている。日中おむつの方はいない。布パンツやリハパンにパッド使用でトイレで排泄の現状を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、必要な水分の摂取、提供する食事の工夫(朝食にヨーグルトを毎日提供など)を行なっている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴前に必ずご本人様に確認、健康状態に配慮し、無理なく入浴していただけるように支援している。	週2~3回の入浴をしている。入浴剤で色や香りを楽しみ、ゆず湯やりんご湯等で季節を感じる等の工夫をしている。拒む方には時間をずらしたり職員を替えて声かけをしている。同性介助の希望に応えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中適度な運動(体操、散歩)を行い疲労感を得られるようにするほか、午後からの水分摂取量に注意し夜間帯の排泄で睡眠が阻害されないように工夫している。日中は状況に応じて休息時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに薬の説明書を綴り、新しい薬が追加されたり減薬された際には職員が確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を活かした役割の支援を目指している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスにより外出の機会が減ってしまったが、散歩やドライブなどは定期的に行なっている。	春に三居沢に桜見物、錦が丘にドライブに行った。月に2~3回はドライブを実施している。天気の良い日は、ホーム周辺の寺などに散歩に行っている。法人特養の夏祭りに参加し、キッチンカーや屋台で食べ物を選び、くじ引きやゲームを楽しんだ。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分で財布を管理できる方は居室内で管理していただいている。現在は外出の機会が減っているため、ご自分でお金を使用する機会も同様に減っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった時や状況に応じて職員が促し手紙や電話でのやり取りを行なえるようにしている。また個人で携帯電話をお持ちの方は気軽に電話できるよう支援している。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が作成した季節の飾りで装飾することで彩りが出るように工夫している。カーテンや照明で明るさの調節を行なっている。入居者が心地よいと思える大きさを音楽を流したり、TVをつけるようにしている。	ホールは毎日定時に換気をし、空気清浄機やサーキュレーター、CO2濃度測定器で温湿度は適切に管理している。壁に入居者が作った貼り絵が飾られ、クリスマスツリーが季節を感じる。テーブルは高さが調節でき、足置き台を置く等居心地の良い空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	簡易ベンチや椅子の移動により気軽に休める空間を作っている。テーブルを分けることで個々での過ごし方ができるようにしている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、ご本人様ที่ใช้慣れた家具や飾っていたものなどを持ってきていただいている。季節に応じた寝具などもなるべくご本人様が使っていたものを使用。	洗面台やクローゼット、エアコンが備え付けである。1階は全室にトイレがある。仏壇や本棚、椅子等を持ち込んでいる。壁に家族や猫の写真、職員手作りの誕生カードを飾り、安心できる自分の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室扉に入居者様の名前を表示。手すりの設置。		